

## 第29回優良省エネルギー設備顕彰

# 「養鰻池加温システム」など4件 顕彰式を盛大に挙

毎年2月の省エネルギー月間恒例の第29回優良省エネルギー設備顕彰式が2月22日(火)、東京・品川区のホテルラフォーレ東京で業界関係者ら多数が出席して挙

### ■ 4 設備を顕彰、省エネセンター最優秀賞に 八洋エンジニアリング(株)

今回の顕彰設備は改修設備部門3件、運転・保守管理部門1件の合計4設備で、うち(財)省エネルギーセンター最優秀賞に、八洋エンジニアリング(株)が施工し、齋藤水産(有)に導入した『養鰻池加温システムヒートポンプによる加温実用化』が、優秀賞に(株)大林組が施工し、八重洲地下街(株)に導入した『八重洲地下街省エネルギー改修工事』、奨励賞に(株)日立ビルシステムが施工し、同社の保養所に導入した『吸収式冷凍機遠隔監視データを活用した省エネシステム』、(株)静岡冷工が施工し、ホーム食品(株)の第二工場に導入した『食品冷却及び空調(冷房)設備用氷蓄熱アイスバンク設備』の2件を顕彰しました。

この度受賞された設備は、今回から新たに委員長となった川瀬貴晴千葉大学大学院教授をはじめとする特別委員会を1月31日(月)に開催、慎重審議のうえ選出しました。

顕彰式は伊藤恒之・経済産業省産業機械課課長補佐、北村修一・(財)省エネルギーセンターエネルギー診断指導部部長、片倉百樹・(社)日本冷凍空調学会会長らが来賓として出席しました。

定刻の午後3時、司会の南雲 誠専務理事が開会を宣し、次いで神宮 晃会長が「当会の優良省エネルギー設備顕彰事業は、皆様のご協力により今年で29回目を迎えることができました。」と述べ、「今や、省エネルギーの推進やCO<sub>2</sub>の削減は、国を挙げて取り組むべき課題であることから、我が冷凍空調業界におきましても更に積極的に対応することが重要である。と同時に、我が冷凍空調業界は、



式辞を述べる神宮会長

お客様への設備改善提案による省エネルギー強化が重要であり、中長期的にみれば、お客様への経営改善、経営支援につながるものと考えている。そして、環境・エネルギー動向から見ても、一層の省エネルギーの推進と新エネルギーの利用促進はわが業界に課せられた重要な使命である。本日ここに顕彰を受けられた皆様は、このような環境を十分理解し、困難な条件を克服され、日頃蓄積された技術を駆使され、省エネルギーに尽力されたご功績は多とするものであり、そのご努力に深甚なる敬意を表するものである。」と式辞を述べました。

次いで、川瀬委員長が審査結果の発表を行い、受賞4設備の省エネルギー技術の特徴について講評を行いました。

次に顕彰に移り、はじめに(財)省エネルギーセンター最優秀賞の齋藤水産(有)に導入した「養鰻池加温システムヒートポンプによる加温実用化」の施工者、八洋エンジニアリング(株)の金尾英敏代表取



川瀬委員長による講評



(財)省エネルギーセンター最優秀賞 北村・同センター部長(左) 金尾・八洋エンジニアリング(株)代表取締役(中央) 齋藤・脩齋藤水産専務取締役(右)



受賞者代表謝辞を述べる金尾氏（八洋エンジニアリング(株)代表取締役(右)）

締役に顕彰状が、設備所有者の齋藤水産(有)の齋藤直之専務取締役感到感謝状が、北村・同センター診断指導部部長から記念品と一緒に贈られました。

さらに、優秀賞、奨励賞の施工者には顕彰状が、それぞれ設備を導入した設備所有者には感謝状が神宮会長より記念品と一緒に贈られました。

## ■「ヒートポンプは省エネの有力な手段」と

### 受賞者代表あいさつ

賞状授与のあと、受賞者を代表して金尾英敏・八洋エンジニアリング(株)代表取締役が「持続可能を実現するにはヒートポンプは有力な手段である。例えば、食品工場、温泉設備、温室栽培とかに非常に上手に使えば省エネになる。これからヒートポンプを使って省エネを実現していきたい。」とあいさつをされました。

最後に、来賓を代表して片倉百樹・(社)日本冷凍空調学会会長より「省エネルギーは、化石資源をどうやって有効に使うか、それを省エネ的にどう使うか、CO<sub>2</sub>の排出をいかに抑えるか、だと思ふ。これらは三面等価だと思ふ。

化石資源の活用という面で考えると、地球に存在している採ることのできるエネルギーは、石油は1.3兆バレル、天然ガス187兆m<sup>3</sup>と言われている。

これをボリュームで試算したとき、富士山は1,400km<sup>3</sup>ある。石油は200km<sup>3</sup>。天然ガスは液化したときに312km<sup>3</sup>。石炭は約8,000億トンでボリュームでみると700km<sup>3</sup>。このように世界に存在している可採エネルギーは、石油でいうと富士山の1/7、天然ガスは1/5、石炭は1/2。全部足しても富士山の9割にもならない。よしんば、科学技術が進歩して、2倍可採エネルギーが採れても富士山2つ分にもない。

それぐらい、重要なエネルギーを我々末代までうまく使っていくとなると、やはり、省エネルギーは重要であると思ふ。

そのような意味でも、本日受賞されました皆様には、頭の下がる思いである。

学会も、皆様と同じ志をもって仕事をさせていただいており、微力ながら、これからも皆様のご活動に何かしらお役に立てるように、皆様の前でお誓い申し上げまして、ご祝辞とさせていただきます。」と祝辞を述べられました。

## ■「ZEB化を推進」と記念講演

引き続き、今回から特別委員会の委員長に就任した川瀬貴晴・千葉大学大学院教授による「日本の省エネルギー政策とビルの省エネ」と題する記念講演が行われました。

同講演の中で川瀬教授は、日本のCO<sub>2</sub>排出の現状とエネルギー基本計画について、特に『新成長戦略』の中で、2020年までに実現すべき目標としてZEH(ゼロエミッションハウス)を標準的な住宅とし、『新築公共建築物等でZEB(ゼロエミッションビル)を実現する』としている」とし、「また、民間でも同様な動きがあり、官民上げてZEH化、ZEB化を推進することで方向性は一致している。」と説明されました。また、「省エネ法改正によって日本のビルの省エネ対策が強化され、2,000m<sup>2</sup>未満の小規模ビルにも省エネ措置が義務付けられたが、さらに、法改正を検討しており、PAL/CECの見直しや省エネ措置の届出が義務化だったものを省エネの適合が義務化の方向で検討しており、省エネが適合していないとビルが建てられない、確認申請が通らないという方向で検討している」と説明されました。さらに、「ゼロエネルギービル(ZEB)化について、日本ではまだそのようなビルは無いが、海外ではZEB化導入事例が多数ある。」とあると報告しました。

最後に、日設連と共同して実施した小規模ビルの



乾杯の音頭をとる中西副会長

エネルギー使用実態調査によって得られたデータを基に、新しい統計を行ったと説明、その分析結果のサマリーを紹介して、記念講演を締めくくりました。

## ■和やかに記念パーティー

顕彰式に引き続き、別室で記念パーティーが開かれました。同パーティーは、中西登喜男・日設連副会長の乾杯の音頭で始まり、受賞者、業界関係者、報道関係者など多数の方々に参加し、和やかに歓談、あちこちで情報交換をする姿が見られ、中田克哉・八重洲地下街株式会社代表取締役の中締めで盛会裡に終了しました。

## 第29回優良省エネルギー設備顕彰受賞者一覧

No.	部 門	設 備 施 工 者	設備所有者(設備建物名)	テ ー マ
1	財団法人 省エネルギーセンター 最優秀賞 〔改修設備部門〕	八洋エンジニアリング 株式会社 (静岡県焼津市)	齋藤水産有限会社 〔齋藤水産ハウス式養鰻池〕 (宮崎県宮崎市)	養鰻池加温システムヒート ポンプによる加温実用化
2	社団法人 日本冷凍空調設備工 業連合会 会長優秀賞 〔改修設備部門〕	株式会社 大林組 (東京都港区)	八重洲地下街株式会社 〔八重洲地下街〕 (東京都中央区)	八重洲地下街省エネルギー 改修工事
3	社団法人 日本冷凍空調設備工 業連合会 会長奨励賞 〔運転・保守管理部門〕	株式会社 日立ビルシステム (東京都千代田区)	株式会社 日立ビルシステム 〔保養所〕 (神奈川県三浦郡葉山町)	吸収式冷凍機遠隔監視デー タを活用した省エネシステ ム
4	社団法人 日本冷凍空調設備工 業連合会 会長奨励賞 〔改修設備部門〕	株式会社 静岡冷工 (静岡市葵区)	ホーム食品株式会社 〔第二工場〕 (神奈川県綾瀬市)	食品冷却及び空調(冷房) 設備用氷蓄熱アイスバンク 設備